

るんるん

(ルンビニ園広報)

発行者 児童養護施設ルンビニ園 広報委員

平成29年1月1日 第45号

園長のつぶやき

明けましておめでとうございます。皆様とともに新しい年を迎えることが出来ましたことを寿ぎたいと思います。

当ルンビニ園は、今年1月22日で創立70年を迎えます。戦後間もなく、東京から二人の戦災孤児を迎えて開設しました。小さな尼寺に尼僧さん数人で、子ども達の衣食住を守り、一人前になるよう願いを込めて育てたのです。当初は、孤児となった児童がお寺での生活に馴染めずに尼僧さんの手を煩わし、時には、戦災で亡くなった親を求めて東京へ逃げ帰ったことなど、初代の園長や職員（尼僧）のご苦労がしのべられます。また、戦後の物のない時代ですから、食料を確保するのも並大抵のことではなかったろうと思われます。質素で粗末な生活であったでしょうけれど、尼僧団や行政の支援を受け、さらに地域の様々な手助けにより厳しい時代を乗り越えてきたのです。

あれから70年、ルンビニ園には尼僧さんと言われる方が一人もいなくなってしまいました。尼僧さんの高齢化と尼僧数の減少によるものでありますが、子ども達を想う尼僧さんの心が消えてしまっていることに甚だ寂しくも残念なことであると思うこととございます。

今日、児童養護施設の生活環境は一変しました。貧しい尼寺の生活から、ユニット形式と言われるひとつの生活の場に台所やトイレ、風呂など、生活に欠かせない設備は十分に備わっており、また、大部屋から小部屋になり、さらに一人部屋も造られ、一見すると、とても快適な施設となったのであります。生活空間が快適になれば、心身も快適になるかと言うと決してそうはならないのであります。生活空間と精神とは、必ずしも結びつくものではないのです。やはり、親と子の関係性や大人と子の関係性を考えていかなければならないのです。その関係性は、安心して休まる場所が確保されているということなのだと思います。それは、やはり人間関係に他ならないものであります。大人が常に子どもを見ているという姿勢が必要であり、そのことが、子どもの生活を保障し安心させていることだと思っております。

「もの盛んになれば心失う」という言葉があります。今の私たちを振り返ってみますと、僅か70年で日本はかつて経験したことの無い急激な変化をみせた時代だと言われていると思います。有り余るほどの物や、そこまでしなければならぬのかと思えるほど、便利なものが次から次へと生まれ進化しているのです。私たちは、そのようなめまぐるしく動くものに一喜一憂し、そんなものに一瞬の幸せを感じ

ているのかもしれませんが。今、施設に入所してくる子ども達の過去をみてみますと、あまりにも悲惨であり、かつての日本はどこへいき、今の日本はどこに向かって進んでいくのか心配でならないのです。

長野旅行

9月18日（日）、富山県旅行業協会の記念事業として幼稚園児2名、小学生20名を長野旅行に招待していただきました。当園以外にも富山愛育園さん、高岡愛育園さんが招待され、県内の児童養護施設合同での旅行となりました。

北陸新幹線「はくたか」に乗り込み、長野到着後、善光寺参拝やイタリアンバイキング、ブドウ狩りなどを体験することが出来ました。

昼食後にはビンゴ大会やじゃんけん大会が企画され、子ども達は大盛り上がり。

普段ではできない贅沢な旅行を楽しんできました。

旅行業協会の皆様ありがとうございました。



ビンゴ大会で景品ゲット！

まるたかやラーメン

10月20日(木)、「ラーメン店 まるたかや」さんが来園され、子どもたちにラーメンを振る舞っていただきました。毎年このラーメンを楽しみに待っている子どもたち。今年もおいしいラーメンをごちそうになりました。まるたかやさん、ありがとうございました。



熱々のラーメン「いただきます！」

立山での日帰りキャンプ

10月22日(土)、国立立山青少年自然の家にて、日帰りでのキャンプに参加してきました。「みんなでなかよくワイワイキャンプ」と題し、小学生20名が参加しました。

野外炊事ではグループに分かれパエリア作りに挑戦し、昼食としていただきました。青空のもと自分たちで作ったパエリアは格別の味！

午後は沢歩きを体験し、水に濡れながらも全員で歩ききることができました。

今回は日帰りでの参加でしたが、子どもたちは、「泊まって帰りたい！」「まだ遊びたい！」という子どももたくさんおり、とても充実した表情を浮かべていました。

国立立山青少年自然の家の皆様、ありがとうございました。



手作りのパエリアとブイヤベース「どうぞめしあがれ」

消防署と合同の避難訓練

11月12日（土）午後3時、ルンビニ園に「リーン」という火災報知器の音が鳴り響き、今年も毎年11月に行っているルンビニ園の避難訓練がスタートしました。

今年は、消防署との合同訓練となり、日頃から地域を守ってくださっている消防隊員15名（富山消防署南部出張所8名、月岡分団7名）と消防車両4台の参加があり、普段と違ったとても緊張感のある良い訓練となりました。要救助者であった園職員も消防隊に救助していただき、児童と職員の全員が無事に避難することができました。

また、ルンビニ園に昔からある古い屋外消火栓から勢いよく水が出た時には、みんなから「おー」と歓声があがり、今も現役で園を守ってくれていることにうれしくなりました。

避難訓練終了後は、消防署の方から、職員対象に「消火器使用訓練」「屋外消火栓使用訓練」「119番通報訓練」を実施していただき、多くの事を学ぶことができました。子どもたちにも消防車や救急車の車両展示をしてくださり、本物の消防車や救急車の運転席に初めて乗せてもらった子どもたちの誇らしい表情とうれしそうな笑顔がとても印象的でした。



子どもたちも消火器訓練にチャレンジ！

坐禅会

12月3日（土）、毎年恒例の坐禅会が当園体育館にて行われました。

恒田理事長の開会のあいさつの後、最勝寺住職より坐禅での座り方や呼吸の仕方、手の置き方などを丁寧に教えていただきました。子どもたちと一緒に園の職員も、黒くて丸い坐禅用座布団に身体が安定するように座り、坐禅に対して心身を整えました。

そして、おりんの音が体育館に響き渡り、そこから静かに目を閉じて20分程坐禅を行いました。

坐禅が終わってからは、最勝寺住職から坐禅の効果について「最近では坐禅をすることで、マインドフルネスといって脳機能が向上する効果が得られる」など、脳にとって良い効果が得られることをご法話いただきました。

今年の坐禅会は天候も良く、体育館に日がさして心地よいひと時を過ごしました。



静かに坐禅中

<最勝寺住職 谷内良徹先生のお話>

第三の方法

良徹先生はおっしゃいました。「人は皆、自分の思いを確かとして相手を責める。相手もまた、同じように相手を責める。それは、お互いが手と手で押し合いする「手押し相撲」のようなもの。それでは、いつまでたっても分かりあえることは出来ない。そこで、お互いが分かりあえる方法として、その押し合いしている手と手をつなぎダンスを踊ることなのだ。」と。児童養護施設に働く私たちは、その方法を考えていく必要があるのでしょうかね。

また、このようなお話もされました。それは、お釈迦さまが死に至る時のお話でした。「お釈迦さまが 80 歳の時、とある町で“チュンダ” だという仏教徒の青年から質素な食事の供養を受けた。だが、その料理を食べたお釈迦様は間もなく腹痛をうったえられ、そのことが元で死に至ることになった。死の前に“チュンダ” が原因だと言われることを憂いたお釈迦様は、このように言われた。“チュンダの供養は、私の人生の中で最も有り難いものであった” と。その後、誰も“チュンダ” のせいだとは言わなかった。」

このような智慧を賜ることも、わたしたちにとりまして大切なことなのです。



最後に坂本園長よりあいさつ

みんなでラーメンいただきます！

12月18日（日）、麺類組合のみなさんが来園され、昼食にラーメンを振る舞っていただきました。園では味わうことのできない本格的なラーメンを味わい、おかわりもたくさんいただきました。

麺類組合の皆様、ありがとうございました。

忘年会

12月24日（土）、毎年恒例の忘年会が当園体育館で行われ、出し物や食事、プレゼントなど、子どもと職員が一体となって楽しみました。

出し物では、今年流行った「恋ダンス」や「PPAP」が披露され、大いに盛り上がりました。

また、たくさんの方々からケーキやお菓子、プレゼントなどをいただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。



今年のメニュー～定番のケーキやチキン、フライドポテトなど～



サンタさんよりプレゼント贈呈

おわりに

平成28年を振り返りますと、世界各地で痛ましい殺戮が繰り返された年でした。今の私たちは、そのような現象にいつしか慣らされて来ているように思われます。命の尊さに気づき、その思いに今一度引き戻していかなければなりませんね。

我がルンビニ園は、沢山の皆様から、形容しがたい温かい支援を受けております。とりわけ、子どもたちや職員へのご指導のほか、ご寄付、ご寄贈をいただいておりますが、そのお陰により、子どもの生活を保障していくことができます。ホームページの上ではありますが、ここに改めて感謝の思いを皆様にお伝え申し上げます。